平成２９年度ユニバーサルデザイン（ＵＤ）教育の取組

１　学校名	小城市立芦刈小学校		
２　所在地	小城市市芦刈町三王崎１４番地		
３　校長名	濱﨑　豊治		
４　学級数 児童生徒数	１２学級（特別支援学級２含む） ２５２人（１０人）	５　実施学年 児童生徒数	３年（特別支援学級２人） ４４人（２人）

６　取組のねらい

小学校中学年（３・４年生）の発達段階において、身につけるべき道徳の価値に、「相手意識」「他者理解」がある。児童にとって、このＵＤ教育を取り組む上で、まず、「他者理解」が重要であると考えた。そこで、どのような人が、どのような時にＵＤの考え方が必要であるのか、その人の立場を体験させ、考えることから始めることが中学年の発達段階で教育するために重要であると考え、本取り組みを実践した。

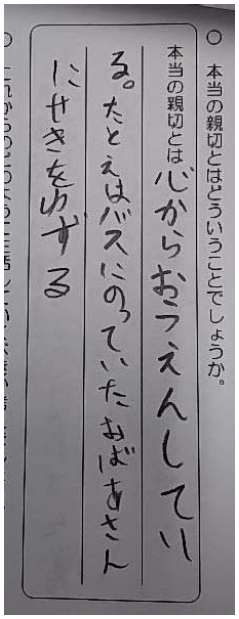
７　取組の実際

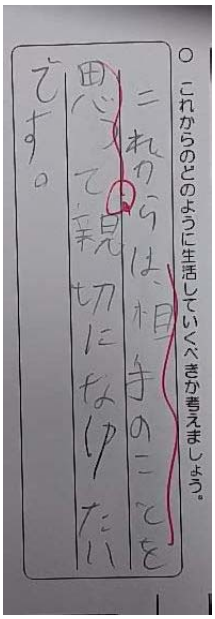
ＵＤ教育の位置づけは、本校３年生では、これまで３学期に取り組んでいた。今年度は、主に 11 月に体験を中心にした取り組みを行った。

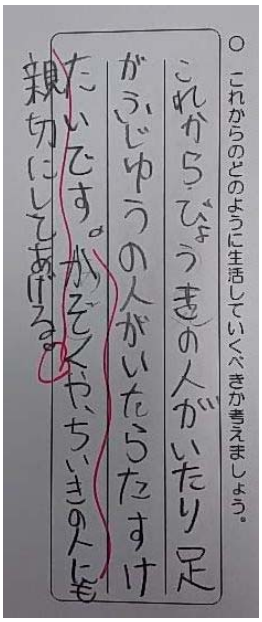
○　10 月３日（火）　道徳　単元名「心と心のあく手」

きつそうに歩いている高齢者に手伝おうと声をかけたものの断られる。後日、見守ることも大切であることから、相手の立場を考えて行動することが大切であることを理解した。

＜児童のワークシート記入内容（一部抜粋）＞







○　11 月２日（木）　アイマスク・白杖体験

小城市社会福祉協議会の担当者による体験的学習を行った。実際に目が見えない状態で階段やマットの上、机の間などを通るといかに困難であるかを体験した。最後に、目の不自由な方のためのＵＤとして、飲料用の缶、お札、シャンプーのボトルなどにＵＤが使われていることを学習した。

○　11 月８日（水）　７年生（中学部１年生）との交流（ＵＤについての質問・意見交流会）

１学期から、ＵＤについて学習している７年生のもとへ尋ねに行き、どういったことにＵＤが使われているか、どうしてＵＤが必要なのかなどを尋ねた。その場でさらに詳しく知ろうとする児童も多く見られた。

○　11 月９日（木）　手話サークルとの交流体験

小城市社会福祉協議会の紹介で小城市手話サークルの方の講演及び手話の実技指導を行っていただいた。特に、グループに分かれ自分の名前を教えていただき。児童は大変喜び、家に帰って自慢げに話していた子も多かった。熱心に聴いている子どもを見た聴覚障害の方から非常に褒めていただいた。２月に「6 年生ありがとう集会」で手話による歌の披露を計画していることを手話サークルの方に打診し、現在、披露に向けて計画中である。

○　11 月上旬～12 月下旬　国語科　「もうどう犬の訓練」

横断的な学習の一つとして、10 月に道徳を行った。11 月に国語科で、もうどう犬について学習した。働く犬について考える中で聴導犬や、セラピー犬などの活躍にも気づくことができた。

○　11月16日（木）　車いす体験

小城市社会福祉協議会と佐賀県難病支援センターの指導で、車いす体験学習を行う。車いすを動かす難しさ、車いすに乗る人の気持ちなどを実際に車いすで生活されている方からお話を聞き、体験する学習を行った。

○　11月30日（木）　高齢者疑似体験

高齢者の気持ちを体験するために、佐賀県在宅サポートセンターの指導で、高齢者疑似体験を行った。実際に体験すると、児童も「お年寄りの気持ち」をよりよく理解することができた。

○　２月２１・22日予定　ひまわり（小城市芦刈保健福祉センター）訪問

これまでの学習を活かし、本校近くの保健福祉センターデイサービスの高齢者の方との交流会に臨む予定である。

８　取組の成果と課題

○　保護者との連携

保護者にも体験学習についての意見を求めたところ、多くの意見をいただいた。

＜保護者からの意見＞（一部抜粋）

・手話、点字、盲導犬の学習、高齢者疑似体験などの学習は、子供の心に体で感じる学びという点でとてもよかったと思います。「人の立場になって考える」といった道徳的感情を「したい」と促す仕方で教育することを目指す自分の家庭でも励みになりました。点字ブロックを歩道で見つけて、「踏んじゃダメ」と言っていたのを聞いて、心に残っていたんだなと感じました。

・高齢者疑似体験では、「ひいばあちゃんは歩いたりするのが大変だね」と高齢者の気持ちが分かったみたいです。なかなかこういう体験をすることができないのでいい経験をさせていただいたなと思います。

・点字の授業は、日ごろの生活用品にも点字を使われていることに気付き、発見していました。

・缶に違いがあることは私も知りませんでした。びっくりです。今後も知っ

て役立ててほしいです。

・学習があった日には、目をキラキラ輝かせて楽しそうに報告してくれました。深く理解するにはまだ難しい年齢ではありますが、第一歩として楽しみながら学習できる機会を持たせていただけたことはとてもありがたく感じます。

＜その他の連動＞

読書感想文の中で、学習したアイマスク体験や車いす体験のことを感想として書く児童も多くいた。それだけ体験したことが影響し、表現することができていた。

○　様々な団体との連携

小城市社会福祉協議会に相談、依頼をお願いした。積極的に協力していただき、様々な講演を実施するために、コーディネートをしていただいた。２月の「６年生ありがとう集会」での手話発表にも快く協力していただき、今後のつながりにも期待できる連携となった。

○　横断的カリキュラム。

本校では、年間を通してＵＤ教育ができないカリキュラムになっていたため、横断的に様々な教科・領域を連携させることでより効果的な教育となることを目指した。総合的な学習の時間のみで行うのではなく、国語科、道徳科でも同じような内容を同じ時期に行うことで教育効果のアップをねらった。その後の児童の様子を見ても、他者理解ができる場面が増え、優しく行動する姿が多く見られた。

▲　ＵＤについて

ＵＤについて、担当指導者が深く理解していないと感じた。ＵＤ新聞などを書かせると具体的なアドバイスがうまくできなかったり、誰に対するＵＤなのかが分からなくなったりすることも多かった。今後も指導者自身がＵＤ教育をもっと勉強することが必要だと感じた。

▲　児童のＵＤの表現について

児童は、他者理解というねらいには近づけたと感じるが、自分がＵＤを考えるなら？といったところまでは踏み込めていない。まだまだ、ＵＤ教育についての学習の積み重ねは必要だと感じる。そのため、今回の学習で終わることなく、今後もＵＤの考えや思いやりの気持ちなどを育む取り組みは必要だと考える。誰もが安心して幸せに過ごすことができる社会を形成するための一員となるよう、今後も実践を続けていきたい。